

第5回 交野市環境基本計画策定ワークショップ 摘録

1. 日時：令和3年11月8日（月）14:00～16:00
2. 場所：交野市役所別館3階中会議室&ビデオ会議
3. 出席者：
 - 濱 中 委員長 （環境部長）
 - 足 立 副委員長（公募市民）
 - 玉 井 委員 （公募市民）
 - 田 中 委員 （大阪府環境農林水産部エネルギー政策課）
 - 幸 田 委員 （地方独立行政法人大阪府環境農林水産総合研究所生物多様性センター）
 - 西 委員 （交野市工業会）
 - 荒 賀 委員 （交野市商業連合会・代理出席）
 - 藤 田 委員 （交野里山ゆうゆう会）
 - 多田羅 委員 （交野市環境基本計画推進会議・自然部会）
 - 浅 田 委員 （交野市環境基本計画推進会議・エコ生活部会）
 - 北 迫 委員 （交野市環境基本計画推進会議・まちづくり部会）
 - 久 保 委員 （交野市環境基本計画推進会議・エネルギー部会）
 - 苗 村 委員 （環境部次長兼環境事業課長）
 - 中 井 委員 （環境総務課長）
 - 南 委員 （企画財政部次長）※Web出席
 - 林 委員 （都市計画部次長）
 - 藤 原 委員 （都市整備部次長）

事務局 環境衛生課（古賀、谷口、魚住、宮根）

NPO 法人木野環境（丸谷、土井、坂本※Web出席）

4. 議事

1) 開会

- ・資料確認
- ・傍聴希望者の報告（傍聴希望者無し）
- ・委員の出席状況の確認（19名中2名欠席、17名出席）、会議の成立を報告

2) 表紙画像の進捗について(事務局)

（報告内容）

- ・前回、委員の方より提案のありました、交野新聞さんが発行されているカレンダー素材について確認を取ったとこと、市民による撮影物が活用されているとのことであった。
- ・市広報担当で所有する画像を紹介し、風景写真の使用で進めることを説明する。

3) 環境基本計画の素案(修正)について (木野環境)

(報告内容)

- ・ジュニア委員会やワークショップでいただいた意見を元に項目別に整理し、今後 10 年間で取り組むべき事項を記載している
- ・これまでのワークショップを踏まえた素案としているが、再度、委員のみなさんからの意見をいただきブラッシュアップさせたいと考えている
- ・基本となる 4 分野は地球温暖化対策/循環型社会/自然共生社会/生活環境 (P.14、15 参照)、その中にそれぞれ柱となる施策が入っている。

「温暖化対策」：再生可能エネルギーの導入、省エネを元にした脱炭素型ライフスタイルの構築、交通分野

「循環型社会」：ごみを出さないライフスタイルへの転換（リデュース、リユース、リフューズ）、資源を循環させるシステムの推進（リサイクル）、長期的視点

「自然共生社会」：保護と人間社会との共存、自然を活用する活動、推進（農業分野も含む）

「生活環境」：安心安全な生活環境、まちなかのグリーンインフラの構築、観光文化資源の整備

- ・第 4 章は全体に関わる事で、環境教育とパートナーシップなどについて記載している

(事前に提出されたコメント)

- ・本市のまちなみ環境に合うグリーンインフラについて説明を行ったうえでのグリーンインフラの推進を進めることが必要ではないか、「グリーンインフラ」という言葉だけの先行は検討の必要があると考える
- ・いわゆる空き家問題は市内ではほとんどない、空き家の活用ではなく、発生抑制としたほうが良いのではないか
- ・避難所への太陽光パネル設置については、防災対策と施設の維持管理との両方での歩調を合わせる必要があるとあり、調整を図りながら進める必要があると感じている
- ・屋上緑化の取り組みについて、内容や取り組み時期などの検討が必要ではないか

(意見)

- ・全体的に網羅されているが、実現性に懸念がある。特に、誰がするかという主体が見えない
- ・公社のようなものを作って事業化を担うことはできないのか
- ・優先順位や施策の展開についてはどのようにになっているのか

4) 先行施策について (事務局)

R4 年度に取り組むこと

- ・大阪府の再生可能エネルギー電力調達マッチング事業を活用し、環境部の所管施設で先行実施を検討している
- ・公共施設の照明 LED 化への切り替えを推進。市役所も一事業者として行動を示すことが必要と考えている

- ・家庭向けの再生可能エネルギーマッチング事業支援
- ・ゼロエネルギーハウスや電気自動車の購入促進
- ・フードバンク事業拠点を拡大および食品ロス削減
- ・4Rの促進：ごみを出さない啓発、制服フリマの拡大などリユースの促進、分別の徹底
- ・バイオガス発電施設に付随する循環システムの構築
- ・まち並みグリーンインフラ（グリーンカーテンなど）の普及啓発
- ・水環境の保全
- ・生活環境の確保

R5年度以降の取り組み

- ・公共施設へのカーポートソーラーの設置
- ・RE100への切り替え。対象施設の拡大
- ・情報提供を含め行動変容への支援

5) 意見（修正案等）

- ・国や大阪府が示している目標値は2030年だが、この計画は2031年度までである。目標値の置き換えをする予定はあるのか
- ・計画の推進体制と進行管理(34ページ記載)が非常に重要。環境部だけではなく全庁的に取り組んでいただきたい
- ・大阪府や国が示している目標数値同等以上を目指してやれば良いのではないか
- ・市が主体でやってもらえることに期待している。
- ・カーボンゼロ宣言(17ページ記載)は出発点になるおおきな物であるから、6ページに移動させてアピールした方がいいのではないか
- ・ソーラカーポートは市で行う事業なのか→公共施設への太陽光パネル設置の拡大が必要と考えているが、建物強度の担保などの課題も有ることから、新たな手段としてソーラカーポートの設置で災害時にも活用できる設備として取り組んでいきたいと考えている
- ・交野市の排出量は事業部門より家庭部門の方が大きい。そこに対して、取り組むべきではないか
- ・交野市の排出量は運輸部門が29%と最大である。運輸や配送施設に対してはどんな取り組みをしてゆくのか。大きいところから取り組んで行かないと効果が見えない
- ・交野市の財政と雇用が増えてゆくような計画をお願いしたい
- ・各家庭での太陽光パネルの設置や蓄電池の設置について補助も必要ではないか
- ・公用車の電気自動車化の推進を進めてはどうか
- ・農地をメガソーラーにするための普及活動も必要ではないか
- ・屋上緑化は都心部などに効果がある手段で交野市民に促すことは効果が無いのではないか
- ・交野ツーリズム推進協議会の関わりは→具体的な固有名詞を出す必要は無い。事業は継続して連携はする
- ・グリーンインフラの“インフラ”という部分だけを見られると誤解が生じる。例示が必要→グリーンインフラ=住宅ひとつひとつの小さな緑、山～まち並みを結ぶ緑という概念にすれば、可能ではないか

- ・交野市に合ったグリーンインフラを例示するなどの工夫を行い「グリーンインフラ」という表現をのこしてどうか
- ・市内の空き家は少ない→空き家の活用より不動産の循環が必要である→発生抑制に努めるという表現の方がよい
- ・古いまちなみを残すことを活用と表現するのはあり
- ・計画の内容を実行するためには、経済的な調整も重要となる。企画や財政など庁内の連携を図り実効性を高めていただきたい
- ・これまでの本市の取り組み内容についても計画内に記載していきたいと思っている
- ・「エコカー」の表記があるが、大阪府では「ゼロエミッション車」としている
- ・グリーンインフラという言葉は、RE100などと一緒で、これからのスタンダードを入れていくというのも一つの考えではないか。自然共生で記載のある「保護」は「保全」とする方がよい
- ・分別されていないごみ対策として、ごみの分別について市民に分かりやすく啓発する機会が必要である。
- ・交野市は、緑は多いが公園は少ないように感じる
- ・田畑を維持するためのシステム作りは農政課でも実施している。担い手不足のため、今後も田畑の減少傾向は続くと考えられる。市として計画的かつ、効果的な施策の絞り込みが必要と考えます
- ・報告書を見てもらえる工夫が必要。より身近な環境基本計画を作り上げて欲しい
- ・フードドライブ事業は当初の想定以上の反響があると感じている、事業者への引き取り依頼が月一程度ではないかと想定していたが、週一回の程度のペースで回収を依頼する状況になっている
- ・再エネ導入も良いけど省エネも大事ではないか。環境とセットでまちづくりを検討すべきではないか、農作物の地産地消の推進で担い手を増やす工夫や、遺跡史跡の活用も検討できるのではないか
- ・全庁的にスマートムーブに取り組んで特に、自転車走りやすい道を整備することが必要である
- ・ごみを減らす行動が温室効果ガス排出削減に繋がるといのが分かりにくい。学習、啓発、発信を行うことが重要である
- ・何かするにはお金がかかるというのではなく、お金を生み出しながらやることも考える。どこが担うのかをはっきりさせた方がいいのではないか
- ・市民協力を促進するための情報提供や情報発信が非常に大切ではないか
- ・ごみの有料化では、その費用がどのように使われているのかの見える化により、協力が高まるのではないか
- ・まちをどうデザインするかが重要。最終ゴールをデザインして、そのためにはどうするかしっかり考えて欲しい。オンラインの活用で、若い世代を取り込んでいくべき。日々の暮らしが環境に繋がるといいうことをアピールすべき

(欠席議員意見の共有)

- ・計画の冊子が手に取りたくなるような成果物にさせていただきたいまた、その冊子を利用した取り組みについても進めていただきたい。
- ・学校では、教科の学習を通じて環境教育に取り組んでいる。今後も継続して環境学習に取り組みます

6) 事務局より第6回ワークショップの案内

第6回環境基本計画 ワークショップ

日時：令和3年11月29日（月）14:00～16:00

場所：交野市役所別館3階中会議室およびビデオ会議

7) 閉会